

## 第1回CSJ化学フェスタ —世界化学年記念大会—を終えて

### はじめに

「第1回CSJ化学フェスタ」は、延べ約1,300人の参加を得て、11月13日～15日の3日間、早稲田大学で開催された。日本化学会ではここ数年間、秋の年会を中止してきたが、2011年3月、公益社団法人として認可され、「化学の寄与を社会に発信すること」、「産学官の連携を図り、化学技術の発展に寄与すること」を改めて決意し、この化学フェスタを企画したものである。第1回となる今回は、折しも「世界化学年」の年であり、「—世界化学年記念大会—」の副題を冠し開催した。

### 化学フェスタ前夜祭

化学フェスタは大隈記念講堂大講堂で行われた前夜祭で開幕した。日本化学会、岩澤康裕会長の開会挨拶の後、西出宏之CSJ化学フェスタ実行委員長（早稲田大学教授）から、大隈大講堂は、野



写真1 大隈記念講堂大講堂



写真2 鈴木章先生の講演を聴く

依良知氏、田中耕一氏などのノーベル化学賞受賞者、アインシュタインなどの著名な科学者、各国首脳などが講演した歴史を持つ由緒ある文化財の建築物であるとの説明があった。その後、「地球の過去・未来と化学」と題し、3人の講師が宇宙、水、高峰譲吉博士に関する講演を行い、100人を超える聴衆がその話と映像に見入った。

### 公開講座「未来に向けたイノベーション」

CSJ化学フェスタでは、まさに「化学の寄与を社会に発信すること」の理念の下に、一般の方々を対象に無料の公開講座を設けた。「未来に向けたイノベーション」のセッションでは視触覚ディスプレイ、生物の知恵、超電導など現在進んでいるいろいろなイノベーションを一般の人にもわかりやすく解説していただいた。また、この公開講座では昨年ノーベル化学賞を受賞された北海道大学名誉教授の鈴木章先生に、受賞に至る経緯や受賞内容に関する講演をいただいた。さらに、2011年のノーベル化学賞を受賞し

たイスラエル工科大学シュヒトマン先生の業績に対する、世界で最も早い解説講演を東北大学蔡安邦先生にお願いした。これらの講演は1,200人が収容できる大隈大講堂をほぼ満員にするほどのご参加をいただき、盛況下に行われた。このほか、公開講座では大型研究のアウトリーチ講演として、早大の逢坂哲彌教授が、電気化学デバイスに関する発表を行った。会場を埋め尽くした参加者の数が、「化学の寄与を社会に発信すること」を目的の1つとして開催されたこの公開企画の意義を象徴したものとなった。

### テーマフェスタ「エネルギー問題と化学」

フェスタのメインの企画の1つは、大隈記念講堂小講堂で開催されたテーマフェスタ「エネルギー問題と化学」であった。喫緊の問題として顕在化しているエネルギー問題を「全体俯瞰」、「エネルギー創出を支える化学素材」、「エネルギーを創り、貯める化学」に切り分け、16人の講師の先生に講演をいただいた。太陽熱、太陽光、風力、地熱などの再生可



写真3 テーマフェスタ「エネルギー問題と化学」



写真4 産学交流フェスタ

能エネルギーに関するもの、キャパシタ、空気電池、水素などの蓄電、畜エネルギーに関するもの、スマートグリッドなどの送電に関するものなど、多岐にわたる分野において活発な議論が行われた。エネルギー問題に化学がどのように寄与できるのか、さらには将来の化学技術の開発のあり方に関する白熱した議論が行われた。

#### 産学官交流フェスタ

産学官交流フェスタでは、「未来のエレクトロニクス」、「未来の住宅」、「未来の資源・エネルギー」、「未来の自動車」の各テーマを設け、パナソニック、旭化成ホームズ、日産自動車など、化学産業にとって川下にある産業分野を含め、学と官を含めた8人の講師から、それぞれの分野の最新情報を始め、イノベティブな化学技術の開発のヒントになる内容の話をしていただいた。産学官の交流の場のきっかけとなり、ひいては化学技術の発展に幾分かの寄与ができたものと感じている。



写真5 企業 R&D 展示ブース

#### 企業展示ブースとR&Dセッション

今回の化学フェスタでは、化学企業の技術、自慢の商品、事業などを紹介する「企業 R&D 展示ブース」と「R&D セッション（講演）」を設けた。ブースでは2日間にわたり延べ20社が出展した。学生ポスターと同じ会場であったことも一因となり、多くの来場者が展示ブースを訪れた。R&Dセッションでは化学会社6社が自慢の商品、技術などの紹介を行い、200人の会場がほぼ満員の賑わいを見せた。

今回のフェスタには300近い学生ポスター発表の申し込みがあり、小野梓記念館で2日間にわたり開催された。日



写真6 R&D セッション



写真7 学生ポスター発表

頃の研究成果の発表、ディスカッションの場を提供することが目的である。掲示時間が1時間とやや短かったが、白熱した議論が行われていた。なお、今回のポスター発表の中で優秀と認められるものには、後日「優秀ポスター賞」が授与されることになっている。

#### おわりに

さらに日本化学会の新しい試みとして、新化学技術推進協会（JACI）との共催により、奨励研究講演会を行い、「将来の化学産業を切り開く先進技術」と題し、6名の方から講演をいただき、100名を超える方々の参加を得て盛大に開催された。

日本化学会では来年、第2回のCSJ化学フェスタを実施する予定にしている。今年度の企画に勝るとも劣らぬ内容となるようその準備を開始しており、今年以上の多くの方々の参加を期待する。

〔第1回CSJ化学フェスタ実行委員長・本会理事  
多田啓司（旭化成（株））〕

© 2012 The Chemical Society of Japan